

2025年6月14日

◎令和7年度 東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

今年度で12回目となる東大和市社会福祉協議会主催の、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が、06月14日にハミングホールにて実施されました。

センターは「東大和市地域防災計画」により、大規模災害の発生時、市と社協とが連携して、市民会館(ハミングホール)に設置することになっています。さらに社協は市と、「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」(最新版:R7. 4. 1)を作成して、センターの円滑な設置・運営、災害復興を目指しています。

今年度は、スタッフ役に約40名、被災者役に12名、後半の市民ボランティアに約50名で、合計100名を超える方々で訓練が実施されました。特に市民ボランティアに幅広い年齢層の方の参加があった事は、今後の活動に期待を持てる事と思います。今回は訓練中に東大和市に在住の日本危機管理防災学会 一級危機管理士の吉江直樹様に「災害は意地悪、想定外を想定する」でご講演がありました。以下訓練内容の報告を致します。

訓練が実施されたハミングホール玄関



【前半(9:00~11:45):本部要員を含め参加者50名

災害ボランティアセンターの設置、被災者からの電話相談受付】

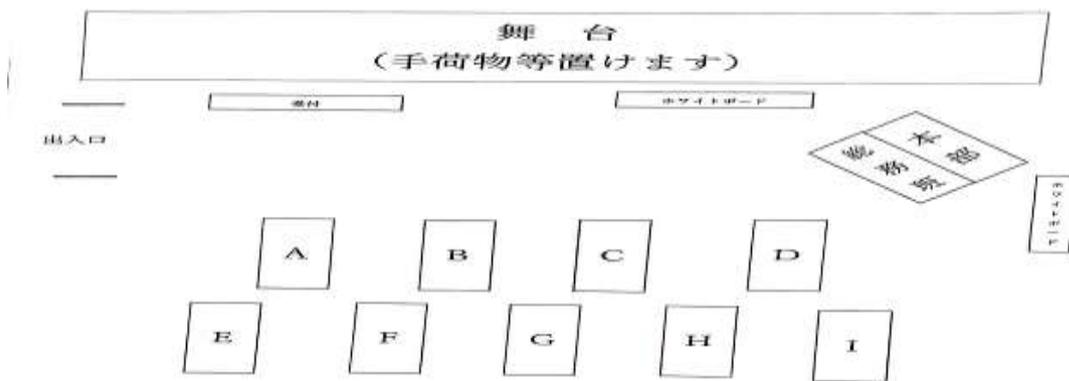
スタッフの皆様で受付開始



被災者支援班の方々が小ホールに集合



★災害ボランティアセンター設置図(レイアウト);(小ホール)



★司会、あいさつ、流れの説明/確認



★会場準備(参加者により会場の準備及び各種用具の支給を行った)



被災者支援班の結成

ボランティア活動時の各種用具の配布完了



★被災者からの電話相談受付

各班毎の担当被災者場所及び被災状況(各班共に担当スタッフは4名)

10時より被災者より電話で各班にボランティア出動要請があり、

●「ニーズ(電話)受付票」

の書式に従い被災者の要請内容を把握して同書式に記入後、スタッフ内で情報を共有化して、現地調査に向かう。

A 班

会場	内容
① 自宅	・ペット、片付け、情報提供 【状況】自宅内をもちかして被災を再視 【物品】段ボール、瓦、一輪車、自転車、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋

B 班

会場	内容
② 南街自治会集会所	・高齢者 足が不自由 【状況】畳が使えない、片付けをしてほしい。 【物品】ペットボトル片、瓦、段ボール、机、椅子 白紙、コールマン 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋、食料



C 班

会場	内容
③ ほっと支援センターなんがい	・ひきこもり家族 【状況】家具の片付けをしてほしい、息子の気持ちを聞いてほしい 【物品】段ボール、机、椅子、白紙



D 班

会場	内容
④ 希望の扉	・障害当事者 【状況】 【物品】段ボール、白紙 【送り出し物品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋



E 班

会場	内容
⑤ 自宅	・高齢姉妹 【状況】倒木した木を撤去してほしい、認知症の姉の支援をしてほしい。 【物品】段ボール、瓦、ペットボトル片、白紙 【送り出し物品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋



F 班

会場	内容
⑥ 自宅	・高齢障在任の高齢者 【状況】被害により、電気・ガスが使用できない、1人での生活が不安なため、食料の調達方法を知りたい。 【物品】段ボール、白紙



G 班

会場	内容
⑦ 協和三丁目自治会	・妊婦 【状況】玄関の入り口が塞がっている。食料の調達方法を知らない。 【物品】段ボール、瓦、妊婦セット、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋



H 班

会場	内容
⑧ ハミングホール	・障害当事者 【状況】家族が不在時に被災し不安。電気が停止した際に電動車いすが使用できない。 【物品】段ボール、レトルト食品、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋



I 班

会場	内容
⑨ ハミングホール	・外国人 【状況】母の体調が心配。言語の問題がある 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋



被災者支援班の担当被災者区分



被災者支援班の本部への現地出発確認

受付; 被災者支援班送り出し完了



被災者支援班の担当被災者区分の行き先表示(白板一覧表)

A B C D E F G H I



★訪問調査状況(被災者役を訪問。「ニーズ(現地調査)受付票」記入);4か所を視察

B班

⑫ 南街自治会集会所	・高齢者 足が不自由 【状況】畳が使えない。片付けをしてほしい。 【物品】ペットボトル片、瓦、段ボール、机、椅子 白紙、コールマン 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、 ゴミ袋、食料
------------	---



C班

⑬ ほっと支援センターなんがい	・ひきこもり家族 【状況】家具の片付けをしてほしい。息子の気持ちを聞いてほしい 【物品】段ボール、机、椅子、白紙
-----------------	--



H班

⑭ ハミングホール	・障害当事者 【状況】家族が不在時に被災し不安。電気が停止した際に電動車いすが使用できない。 【物品】段ボール、レトルト食品、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、 ゴミ袋
-----------	---



I班

⑮ ハミングホール	・外国人 【状況】母の体調が心配。言語の問題がある 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、 ゴミ袋
-----------	---



「ニーズ(現地調査)受付票」完成



完成した「ニーズ(現地調査)受付票を本部への提出

★本部・総務班

情報収集・発信、活動集計など、臨機応変の対応。



【後半(12:45~16:30):本部要員を含め参加者約50名

ボランティア役の市民ボランティアによる被災者支援】

★被災地に赴くボランティアの受付



★ボランティアへの貸与救難機材類



★集合、あいさつ、訓練説明(大ホール)



★事前動画の投影(災害ボランティア関連)(大ホール)



★現地への送り出し

大ホールから各班毎に退出状況

A 班



B 班



C 班



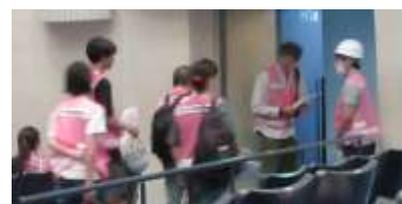
D 班



E 班



F 班



G 班



H 班



I 班



ロビーで各班毎の出発前ミーティング状況



各班毎に必要なボランティア支援機材の受け取り



★ボランティア活動支援班の訪問作業実施状況(被災者役を訪問。「活動報告」の作成)

B 班

⑫	南街自治会集会所	・高齢者 足が不自由 【状況】畳が使えない。片付けをしてほしい。 【物品】ペットボトル片、瓦、段ボール、机、椅子 白紙、コールマン 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、 ゴミ袋、食料
---	----------	---



C 班

⑬	ほっと支援センターなんがい	・ひきこもり家族 【状況】家具の片付けをしてほしい。息子の気持ちを聞いてほしい 【物品】段ボール、机、椅子、白紙
---	---------------	--



H 班

⑭	ハミングホール	・障害当事者 【状況】家族が不在時に被災し不安。電気が停止した際に電動車いすが使用できない。 【物品】段ボール、レトルト食品、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、 ゴミ袋
---	---------	---



I 班

② ハミングホール	・外国人 【状況】母の体調が心配。言語の問題がある 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
-----------	---



★活動終了後の各班毎での個別反省会

各班毎に「活動報告」の最終確認及びボランティア訓練の反省会を開催した。



★反省会

総司会者



★個別反省会(ボランティア代表;参加6名代表からの感想)

(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



お話の要約は以下の通りです

1. 実際に災害があった時の、人との対応方法について勉強できた。
2. 机上のみでなく、実際の被災者との話す機会があった。
3. 事前情報の欠如により、持ち帰り案件が発生した。
4. チームメンバー数の検討、被災者に相応したメンバー数の配置。
5. 被災者役に相応した電話対応の極めの細かの対応困難さを感じました。
6. 二回目の参加です。被災者に寄り添う気持ち、的確な役割分担が必要。

★総評(今回の訓練の総評がされました)

(東京 VC の統一報告様式キントーンの更なる活用、携帯電話はスマホの活用を、若い世代の一層の参加促進)



★避難所支援講習会

東大和市在住の一級危機管理士;吉江様から以下の資料による講演がありました。



東大和市で使用の避難所仕切りテントの展示



災害は意地悪、想定外を想定する
有事があった際コミュニティをどう形成していくか
「自助」を通じて家族を守る

令和7年 06月 14日 ver1.0

日本危機管理防災学会
一級危機管理士 吉江 直樹

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

目次

1. 自己紹介
2. 危機管理とは
3. 国の防災計画
4. 自助・共助・公助
5. 自治体・自治会の様子
6. 目標を決めよう
7. 震度5以上の地震が起きたら
8. 何が出来るの?
9. 考え方
10. おわりに

● 参考までに

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

5.自治体・自治会の様子

議論をする前に

- ・災害(Disaster)は社会現象
- ・自然現象としての地震や台風 (これらをHazardと呼ぶ)
- ・防災・減災・縮災が出来ていない
- ・防災・減災・縮災

行なうには ⇒ **明確な目標が必要**

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

5.自治体・自治会の様子

自助が大事 = 自分の身は自分で守る
⇒電気・通信・水道・ガスが修復するまで
どう自衛するか個々に考える

共助はご近所を中心に

公助はあまり期待しない

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

5.自治体・自治会の様子

想定外ってなんだろう

- ・自然災害
- 豪雨 ⇒ 一時間に200mmの雨は降る
- 豪雪 ⇒ 2mの積雪・屋根の雪おろし
- 落雷/雹 電化製品の故障/野球ボール程
- 火山噴火 ⇒ 火山灰による二次災害etc
- ★地震 ⇒ プレートは押されている

首都圏直下 (千原沖) M8

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

6.目標を決めよう

目標

震度5強以上の地震が起きたら

- ・寝ている時間帯
- ・昼間の時間帯
- ・夕食づくりの時間帯

具体的に何が起きるか想定してみましょ!

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

7. 震度5以上の地震が起きたら

・シミュレーションをしよう!
イザ! というとき役に立つ

★災害が発生した際、あわてそうになる
自分や周囲の人をその場で落ち着かせる三つの方法

1. 大きく深呼吸をする
2. ゆっくり10まで数える
3. 「落ち着いて」「大丈夫」などと声を出す

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

7. 震度5以上の地震が起きたら

自助 共助 公助

1. ? 2. 自宅損壊 3. 物資

⇒ 首都圏直下 広域災害 ⇒ 何も出来ない 物資は来ない

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

7. 震度5以上の地震が起きたら

国の復旧順位(優先順位)

- ・道路
- ・電気
- ・通信
- ・水道
- ・ガス

1. 2. 3. 4. 5.

インフラ

※復旧の目安 (日数ってわかります?)

ライフライン

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)

参考 2019年 11月 台風19号

正確な情報収集力の欠如

2/2 情報収集の遅さ

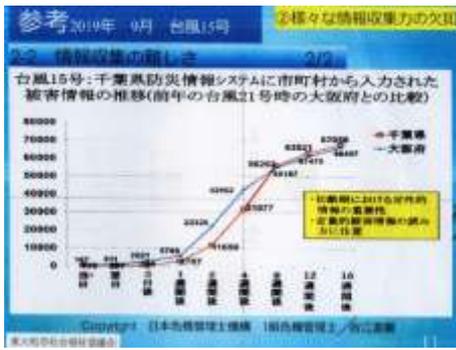
1/2

各地域で電柱倒、倒木、ゴルフ練習場の倒壊など

★災害時のインフラ復旧順位

- 1.道路
- 2.電気
- 3.通信
- 4.水道
- 5.ガス

Copyright 日本危機管理士機構 (一級危機管理士、吉江直樹)



7. 震度5以上の地震が起きたら

発生時、出来ることは何?

- 家財道具の下敷き
- 救助は?

対策

- 家具の固定
- 不要なものは置かない

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 火災
- 消火は? (火の先端が天井に届いたら消火は×)

対策

- 普段より電気のコンセントは抜いておく (床から自然起リ/トイレット)

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

対策

- 自宅から火災を逃がすための準備

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- ガラスでけが
- 止血は?

対策

- 寝床に安全靴、スリッパ等を用意

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

対策

- 寝床にイメージ

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 家の倒壊
- 寝室は2F

対策

- 耐震補強?

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 寝室は2F
- イメージ

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 東大和市七森公園にて 2018
- 避難物として出来た たき火物は継続中/時々発生
- 火の起こし方
- 防災キャンプ 非常食の活用(火を使わない) アルファ米+野菜ジュ

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

例: モーリアンヒートパック等にて加熱もあり

Copyright | 日本気象協会 | 気象情報 | 気象庁

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 事前準備
出来ない、やれない理由
 - 整理が面倒
 - 準備しても役立つしない
 - 時間がない
 - その時にやれば良い
 - やり方がわからない
 - 人には迷惑かけてない
 - 必要だと思わない
 - (かけたくない)
 - 自助のみで充分
 - 隣人との共助が面倒
 - お金がない

本当に必要？
私(自分)は用意できない/今すぐできない

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 自助以外では？
- 公助？？？
救急車 ⇒ 来ない 119番は有効
- 自分は大丈夫
⇒イザとなると助け合い
⇒心のケア(不安解消)

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 治安
- 近隣の人・・・
顔と名前、一致してますか？
- 安否確認の一例
大きな地番地図(住宅地図)事前に準備
"名前"(オビロゲームの裏表)を裏返し安否確認
⇒行うのは自治会？

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 広域、大規模災害時
- 行政は機能しない
⇒人手不足
⇒自治会が行政の肩代わり(案)
共助ってなんでしょう？

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

7. 震度5以上の地震が起きたら

- 何が出来る？
- 私(自分)が用意できるもの
(予め必要なものは)

↓

- 72時間以内でも必要なもの

皆さんで考えて列挙してください

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

8. 何が出来るの？

- 家庭、職場 **何が出来るのか**
何が出来ないのか
- 会社
 - 囚人のジレンマ
 - グレンシャムの法則
 - ハイน์リッヒの法則
 - SS 整理、整頓、清掃、清潔、しつこ

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

9. 考え方

- 何を学んで
何を応用するか
- 情報ってなんだろう。。。
例えば SNS 便利だけれど、
考えてます？
(直感？ハイリスク・ローリク)

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

1) 自宅建物の倒壊



Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

ご清聴
ありがとうございました

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

情報のリテラシー 知っていて
役たちそうなもの

- NHK ニュース防災
http://www1.nhk.or.jp/news/room_baseball_app/index.html
- NHK らじるらじるネットラジオ
<http://www1.nhk.or.jp/radio/>
- 外国人との会話 翻訳機VoiceTra
<http://itunes.apple.com/jp/app/voice-tran/id1111257701?mt=8>
- 東京アメリシユ
<http://tokyo-americas.jp/ja/press/press.html>
- 気象庁 気象情報
<http://www.jma.go.jp/jma/press/press.html>

Copyright © 日本危機管理士機構 | 防災情報誌「防災」

★参加賞(以下の物品が配布されました)



NO. _____

ボランティア活動証明書

あなたは東大和市社会福祉協議会主催の令和7年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練に参加されたことを証します。

令和7年6月14日

社会福祉法人

東大和市社会福祉協議会

会長 中澤正至



以上

★訓練に使用された関連資料は以下の通りです。

令和7年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練
タイムスケジュール【午前】

開催日：令和7年6月14日（土）
会 場：ハミングホール
市内各所

9:00 スタッフ受付開始
当日の流れ等説明・総集準備
10:00 朝顔電話室の開始
10:20 被災者宅の訪問と備前
11:00 備前作成
11:45 →お昼休憩→

＜メモ＞



令和7年度
東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練資料

開催日：令和7年6月14日（土）
会 場：ハミングホール
市内各所

1 災害ボランティアセンターとは？

- ①地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災者の支援をしたい人をつなぐ機関です。
- ②災害時に臨時的に設置されます。
- ③被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、災害による「困りごと」にボランティアとともに対応します。

2 訓練のねらい

- ①まずは知ってください。
- ②「助けられる側」から「助ける側」になることを考えましょう。
- ③日頃からつながりをもたせましょう。

3 今回の訓練の被害想定（市防災計画より）

【被害の概要】 ※市防災計画をもとに他市の状況も参考に想定

項目	内容
事象	台風5号、市域の約3分の1が浸水。人的被害、死亡2名。その他31名が災害関連死で死亡
発生日時	令和7年6月7日（土）午前9時30分
住家被害	全壊51棟、大半壊し155棟、半壊1、475棟
床上浸水	149棟
床下浸水	3、072棟
避難状況	11、230世帯、31、398避難指示、990世帯、2、723人避難勧告

P1

4 内容とタイムスケジュール

- ・実際の災害を想定し、「防災想」で被災者支援を体験します。
- ・実際の災害時に使用する「マニュアル」に基づいてボランティア活動を行います。

12:45 ボランティア受付開始
→受付にて自分の氏名があるか確認

13:15 会長・市長挨拶、災害ボランティアセンター説明（大ホール）

13:50 オリエンテーション・マッチング・送り出し
※オリエンテーション＝ボランティア活動上の注意等を聞く
※マッチング＝支援を必要とする被災者の紹介
※送り出し＝数名～組でグループとなり、リーダー各決め、資機材を持って現場へ移動

→市内各所へ移動しボランティア体験

- 各被災者宅の家（を想定した場所）で片付け等の活動
- 各事所の場所で安否会を行う

15:30 ハミングホールへ再集合、個別反省会（ホワイエ）

16:00 全体反省・講評（被災者宅も集合）
→大ホールに戻り反省

16:30 閉会
※時間は見込みです。進行により前後する場合があります。
※「被災者宅」は近隣進行を確認します。
※会議室では気軽に参加できる防災講座を開催します。ぜひお立ち寄りください（1500～）。

＜メモ＞



P2

令和7年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練実施計画

1 目 的 本会は東大和市との協定に基づき、災害ボランティアセンターを中心的に設置・運営する役割が求められている。広く市民に災害ボランティアセンターを周知し、啓発を促すとともに、マニュアルを再点検し実態に備えるため本訓練を実施する。
前年度の反省をふまえ、より効果的かつ実践的な訓練を実施する。また作日に実施することで若い世代の参加を促進するとともに市役所等関係機関の参加を促進し連携を強化する。

2 主 催 東大和市災害ボランティアセンター協議会
東大和市社会福祉協議会

3 日 時 令和7年6月14日（土）9:00～16:30

4 場 所 ハミングホール内及び市内各所

5 参加機関 (1) 東大和市青年会議所
(2) 南野・桜が丘地域防災協議会（スタッフ役、ボラ役、市民役）
(3) 東大和障害福祉ネットワーク（被災者役として）
(4) 東大和市（市民生活課・防災安全課）
(5) ハミングホール
(6) 民生委員・児童委員
(7) 高齢者ほっと支援センター
(8) 東大和市社会福祉協議会理事・評議員
(9) 職員
(10) 市内自治会
○曙野地区4自治会
○向陽区増上つむぎ自治会
○奈良橋自治会
○新橋自治会
○伏山自治会
○高木自治会

(11) 福祉施設、災害避難所
※その他市民に参加を呼びかけ、ボラ役5名を確保を想定

6 目 標

- (1) 被災者への寄り添い、個別支援、ニーズの聞き取りやサポートに視点を置くことを目的とする。ボランティア活動時における、被災者への寄り添い、配慮ある行動について知識を高める。
- (2) 学生や若い世代の参加を促進し、ボランティア等関心を持って頂ける内容を加える。
- (3) 前年度参加した団体以外の新たな団体等の参加を得る。
- (4) アダルトゲーム（Kintone）を用いた訓練を本協議会で体験する。

7 訓練内容
→訓練前に実施すること
(1) インターネット上でボランティア募集を行うことを想定し、ウェブの受付フォー

P3

みを作成し、ボランティア希望の方に受付フォームを通して申し込みでもらえるようにする（チラシに受付フォームにQRコードを貼付する）。電報で申込をした方については、当日本センターのタブレットを使用して受付フォームから申込をする。

- ③インターネット上の受付フォームでの申し込みが難しい方は、従来通り事前に電話等で申し込みいただき、当フォームに入力していただく。
- ※ボランティアの依頼はボランティア役とセンタースタッフ役の2種類とする。ただし、センタースタッフ役は1名以上とする（高校生は除く）。
- (2) インターネット上でボランティア申し込みをした方よりオンラインセッションの動画をメールで送付し、同時に依頼いただけるようにする。受付が終わった方に自動で動画のURLが送付されるよう、事前に設定しておく。
- ※事前に動画を視聴いただいた方に当日のオンラインセッションにも参加いただく。

＜訓練日に実施すること＞

- (1) ボランティアセンター設置の協議
 ○意見、見解が協議し、市へセンター設置協議を行う。
 (2) 災害ボランティアセンター設置に関する関係機関への連絡
 ○地域職員より関係機関へ連絡する。（JIC、防災協議会等）
 ○設置が決まったことを連絡（既対本部、東ボラ）
 ※（1）、（2）は準備期にて実施する。

- (3) センター設置
 ○ホームページへ移動し、他のボランティアと共にセンター設置を行う（机、椅子、看板等の設置）

- (4) センター運営準備と実施
 ○準備中はセンター設置とコープ勉強会を行う。
 ※職員中心に実施する。＜コープ側は地域職員がより訓練すべき内容＞
 ○被災者役から電話を入れていただく。スタッフは現地調査に該当する。
 ○スタッフはセンターに持ち帰り、ボランティア受付を作成。
 ○コープ受付書と現場作業地図をボランティア活動支援館へ引き継ぐ

- (5) ボランティア受付
 ※午前中からボランティア受付、マッチング、送り出し、現地へ移動していただく活動、反省まで実施。

- (6) 全体反省会

9. その他事項（前年度から引き継ぎを行う内容と追加する内容）

- (1) 市防災安全課、避難所運営に関する課の参加
 →市民生活課から連絡。
- (2) 市長、市議会議員にご案内する
 →市長は市民生活課から案内し参加をいただく。市議会はチラシ出稼事業開始。
- (3) 若い世代の参加促進
 →多摩地区の福祉系大学（白梅大学、武蔵野大学、津田塾大学、法政大学、及び近隣の学校（北多摩看護専門学校、立三大学）とNPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）への周知→SNSを活用したPRと現地訪問を検討する。

→被災者個人宅での保護訓練のリアル化を継続。肉体的労働を加える。また個別支援の視点を強化する。（障害者特有のニーズ、認知症、生活不送受への懸念、子育て家庭の課題等を含める）障害福祉ネットワークに協力を依頼する。
 →外国人支援の事例を取り入れる
 →気軽に参加できる防災講座（古江委員の自動翻訳と紙器づくりを行う）また、避難所の備品であるテントを借りる

- (3) ボランティア役について
 ①防災協議会、自治会、社会役員及び一般市民、学生へ参加を呼びかけ
 ボランティアリーダーは、寄り添いを大切に支援する。ボランティア活動後の被災者役のやり取り、ロールプレイから気付きを得てもらおう。
- (4) 掲示について
 自由に閲覧できるスペースを作成。災害ボラセンについての掲示をする。
- (5) ボランティア活動証明書及びお土産について
 ボランティアを実施したという証明ができるものを用意する。

12. 広報
 (1) 市報・社協だより・ホームページ・X（旧 Twitter）
 (2) チラシ（ボラ役としての参加を促す内容で自治会、防災協議会等へ周知）※一般参加者は申込制とする。
 (3) 若い世代向けPR（JICに協力依頼）アプリ等を用いた周知

13. 職員参加
 ※スタッフ役、被災者役等、今年度もなるべく多く参加。

- 両青葉、法徳園、PTA等への周知
 →二小、二中のPTAは防災協議会員に周知
 →中学校生徒、高校2校（東大和高校、東大和商業校）の生徒への周知
 →会員にチラシを配付する
 →昨年参加した方とボランティア個人登録者へも声をかける。

- (4) 関係機との参加
 →参加者の検討

- (5) 物品等の用意について（取上方法）
 →輸送、自、スコップ、車、車中泊用意
 がれき用意（瓦、土のう、テント器材等を別途に用意する）
 →タブレット端末で撮影し、写真の有効活用
 →お土産を準備する

9. 概況

- (1) 被災者役（15名）
 →→防災協議会、障害者ネット担当者事前に役割を説明、確認。
 (2) センタースタッフ（25名、うち10名一般）
 →→地域職員、市職員、JIC、大学生他
 (3) ボランティア役（50名）
 →→18歳以下、防災協議会、社会役員、一般市民他

10. 時間配分

- 8:00 センター設置協議、関係機関連絡センタースタッフはヘルプホール集合
 8:30 集合、一日の役割説明、自己紹介
 災害V.C設置（機材、物品、受付機設置等）
 10:00 コープ受付開始（被災者役がセンターへ電話）
 10:20 コープ開始（被災者役へ説明、現地調査）
 11:00 コープ調査フォーム入力、物資前倒し作成
 11:40 休憩
 12:40 ボランティア受付開始
 13:10 災害V.Cの閉鎖会（自由参加）
 13:30 オリエンテーション、マッチング、送り出し
 ボランティア活動（ボランティアが被災者役へ出向き活動）
 15:30 活動終了、センターへ集合、活動に関する個人反省会（ホワイシ）
 16:00 全体反省会、挨拶（被災者役もヘルプホールへ）
 16:30 閉会
 ※15:00（10分～30分）で古江委員の講話、その後は食器づくりも実施。

11. 準備

- (1) スタッフ役について
 ①職員、関係者へスタッフ役としての参加を呼びかける
 ②物品は印刷の通り
 (2) 被災者役について
 ①シナリオの事前用意をホームページに被災者役を決定。（詳細別途）

役割分担一覧

1. スタッフ役【役割】
 ①ボランティアセンター設置を行い、受付体制を整える。
 ②コープ調査を行う。
 ③ボランティア受付等の事務を行う。
 活動時間、被災者支援、ボランティア活動に関するお問い合わせ、お問い合わせ先

所属	人数	備考
① 東大和市社会福祉協議会	4	
② 東大和市	6	
③ 社協	6	
④ ぽつと支援センター	2	
⑤ 民生委員・児童委員協議会	4	
⑥ 南南・横浜地域防災協議会	3	
⑦ 自立支援協議会	1	
⑧ JIC	1	
⑨ 市内自治会等	1	
⑩ ボランティア協議	1	
合計	37	

2. ボランティア役【役割】
 自治会向けにはボラ役募集チラシ配付。スタッフ役、被災者役は協議会メンバーから選出
 ①ボランティアとしてセンターを訪問、受付、オリエンテーション、マッチング、送り出し、募集、災害の復旧を体験していただく。
 ②ボランティアとして被災者を支援する活動をロールプレイで体験し災害V.Cの理解を深める。
 ③ボランティアリーダー役を事前に決定し、被災者とボランティアリーダーのロールプレイを見て、一般参加者へ災害ボランティアセンターの意義を啓蒙する。

所属	ボランティア	参加者	数
① 東大和市社会福祉協議会	0名	被災者役、被災者役	4
② 南南・横浜地域防災協議会	0名		
③ 民生委員・児童委員協議会	3名	被災者役	1
④ 自立支援協議会	1名	被災者役	1
⑤ 社協	3名	被災者役、被災者役	3
合計			9



R7年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練スタッフ役振り分け表

グループ	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
社協 (ボラリーダー)							担当	担当		
社協	担当				担当	担当	担当			
他社協	担当		担当	担当	担当			担当	担当	
東ボラ				担当		担当				
民協	担当	担当	担当	担当		担当	担当		担当	
ほっと支援センター		担当			担当					
南街・桜が丘防災協議会								担当		
JC		担当								
市内自治会			担当							
ボランティア団体										担当
人数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	27
事例	ペット	高齢者	ひきこもり	障害+親	認知症	高層	妊婦	障害	外国人	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	

P10

【事例一覧 (案)】

①	会場	担当	内容
①	自宅	高齢者(高齢者)	・ペット、片付け、情報提供 【状況】自宅内をちらかして被災を再現 【物品】段ボール、瓦、一輪車、自転車、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
②	南街自治会集会所	高齢者(高齢者)	・高齢者 足が不自由 【状況】畳が使えない。片付けをしてほしい。 【物品】ペットボトル片、瓦、段ボール、机、椅子 白紙、コールマン 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋、食料
③	ほっと支援センターなんがい	高齢者(高齢者)	・ひきこもり家族 【状況】家具の片付けをしてほしい。息子の気持ちを聞いてほしい 【物品】段ボール、机、椅子、白紙
④	希望の扉	高齢者(高齢者)	・障害当事者 【状況】 【物品】段ボール、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
⑤	自宅	高齢者(高齢者)	・高齢姉妹 【状況】倒木した木を撤去してほしい。認知症の姉の支援をしてほしい。 【物品】段ボール、瓦、ペットボトル片、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
⑥	自宅	高齢者(高齢者)	・高層階在住の高齢者 【状況】被害により、電気・ガスが使用できない。1人での生活が不安なため、食料の調達方法を知りたい。 【物品】段ボール、白紙
⑦	協和三丁目自治会	高齢者(高齢者)	・妊婦 【状況】玄関の入り口が塞がっている。食料の調達方法を知りたい。 【物品】段ボール、瓦、妊婦セット、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
⑧	ハミングホール	高齢者(高齢者)	・障害当事者 【状況】家族が不在時に被災し不安。電気が停止した際に電動車いすが使用できない。 【物品】段ボール、レトルト食品、白紙 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋
⑨	ハミングホール	外国人(外国人)	・外国人 【状況】母の体調が心配。言語の問題がある 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片 【送り出し備品】軍手、ほうき、ちりとり、雑巾、ゴミ袋

※会場は全て一部未調整

令和7年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練全体進行表

6:00	受付	あいさつ、受付の確認、参加者紹介等。		東野	セッティング	-各会場に備え -会場のセッティングを行う。	各地					
	災害VCR設置	標的物、物品、受付場所等を設置。	小ホール									
	10:00	電話受付	-電話で被災者からの相談受付、訪問先を他県等で確認 -1〜11組に分かれ、各組1件の相談対応 ※訪問設置を準備に行うため、電話で聞き取りができる部分は聞き取りを行う。	小ホール	電話対応	-被災者としてVCRへ電話し、シナリオに基 いた対応を行う。 -住所等をスタッフへ伝え、訪問を受ける 対応をする。						
	10:20	訪問調査	各組、1ケース現地訪問し、調査する。 ※訪問先では担当の人が全体的に対応する。	各地	訪問	-スタッフの訪問を受ける。						
	11:45	ニーズ受付準備作成	訪問終了後、「ニーズ受付票」様式ありを作成。またKintoneへの入力準備を行う。	小ホール								
	11:45	引き継ぎ	ボランティア支援室(今回は本部)へ、相談者の情報をニーズ受付票をもとに引き継ぐ。									
	11:45~12:45	お昼休憩		各自	被災者役	お昼休憩			各自			
	12:45	受付	受付のサポート等	カウエ	被災者の 役割				受付		カウエ	被災者の 役割
	12:45~	事前確認の確認							ボランティア 役	ボランティア 役		
	13:15	交流会あいさつ	中澤会長、市長あいさつ。	大ホール	東野					交流会あいさつ	中澤会長、市長あいさつ。	大ホール
	訪問開始	巡回車、マッピング、巡回出し等、 ※カウエへ移動。	大ホール ↓ カウエ	東野			訪問開始	巡回車、マッピング、巡回出し等、 ※カウエへ移動。	大ホール ↓ カウエ	東野		
13:30	巡回出し	巡回車に分かれつつ、カウエへ移動する。 ※巡回車からボランティアの方々に巡回車乗降場を伝える。 ケースごとに必要な物品をわたす。	カウエ				巡回開始	巡回車車に向かう。				
14:00後	※お時間がある場合は各事例に実行し、様子を見ていただくことも可能です。反省会も各事例ごとに行う。				ボランティア 役	ボランティア 役	ボランティア 役	シナリオに基づき相談を行う。	各地	ボランティア 役	ボランティア 役	
15:30	個別反省会	チームで事例に関する反省を行う アンケートを記入する					個別反省会	ボランティア活動を行う。				
16:00	全県反省会 総評(高田氏)	全県で訓練の反省を行う 総評をいただく					活動終了	ボランティア活動を行う。	各地	活動終了	ボランティア 役	
16:30	終了						活動終了	ボランティア活動を行う。	各地	活動終了	ボランティア 役	

※15:30〜16:30にハングホール全職員にて若手委員の自覚確認と紙屋修づつ研修を開催いたします。お時間のある方はお立ち寄りください。

ボランティア 依頼者の皆さんへ

私たちは
東大和市災害ボランティアセンター
から来ました。



しゅきょのたまちゃん

※ボランティアへの報酬は必要ありません

ボランティア活動で気づいたことや継続してボランティアが必要な場合、その他困った事が有れば、下記までご連絡ください



<ご理解いただきたいこと>



- 作業中に余震が発生した場合の作業の中断
- 作業終了時間のお願い
4～9月 16：00まで
10～3月 15：30まで
- 休憩時間 1時間に10分程度
- トイレ・水道の借用のお願い
- お断りする作業
 - ・営利行為、政治的、宗教的活動へのお手伝い
 - ・リーダーが危険と判断する作業（例：高所作業など）

東大和市災害ボランティアセンター
市民会館（ハミングホール）

電話 042-****-****

FAX 042-****-****

令和7年度

東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練資料

開催日：令和7年6月14日（土）
会場：ハミングホール
市内各所

1 災害ボランティアセンターとは？

- ①地震などで被災し、助けが必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関です。
②災害時に臨時に設置されます。
③被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、災害による「暮らしごと」にボランティアとともに対応します。

2 訓練のねらい

- ①まずは知ってください。
②「助けられる側」から「助ける側」になることを考えましょう。
③日頃からつながりを大切にしましょう。

3 今回の訓練の被害想定（市防災計画より）

【被害の概要】 本市防災計画をもとに他市の状況も参考に想定

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 内容 (Content). Rows include: 事象 (地震6.0, 津波3.0m), 発生日時 (令和7年6月7日), 住家被害 (全壊53棟), 床上浸水 (145棟), 床上浸水 (3,072棟), 避難状況 (11,230世帯).

4 内容とタイムスケジュール

- ・実際の災害を想定し、「お言葉」で被災者立場を体験します。
・実際の災害時に使用する「マニュアル」に基づいてボランティア活動を行います。
12:45 ボランティア受付開始
13:15 会長・市長挨拶、災害ボランティアセンター説明（大ホール）
13:50 オリエンテーション・マッチング・送り出し
15:30 ハミングホールへ再集合、個別反省会（本ワイエ）
16:00 全体反省・講評（被災者役も集合）
16:30 閉会

- ※時間は見込みです。進行により前後する場合があります。
※「被災者役」は別途進行を確認します。
※会場では気軽に参加できる防災講座を開催します。ぜひお立ち寄りください（1500円）。



(様式7) (裏)

ボランティア活動に行く前に必ずお読みください！

(1) ボランティア活動の心構え

- ボランティア活動にはまずご自身の健康が何よりもです。けがなどがあること被災者、被災地にご迷惑をかける。下記を参考にセルフチェックをお願いします。
○活動先では、依頼者の気持ちを尊重してください。自分に合わせて活動するのではなく、依頼者の気持ちや依頼者の暮らしに合わせて無理強いしないように活動してください。
○被災地に行く前に、持ち物や準備するものを確認してください。以下のQRコードからご確認ください（東京ボランティア・市民活動センターHP参照。）



(2) 活動するときの注意

- 依頼者のお宅/避難所に赴いたら、「東大和市災害ボランティアセンターから来ました」と伝え、依頼者に「ボランティア依頼者の皆さんへ様式10」を渡し、作業内容の確認をしてください。また、案内への入室等は依頼者の許可を得てください。
○以下の場合は、必ず災害ボランティアセンターへ連絡してください。
「ケガをした時」「体調が悪くなった時」「活動が危難または手に負えないと判断される時」「依頼された以外の活動を頼まれた時」「判断に困った時」
東大和市災害ボランティアセンター
☎042-564-0035
○活動中は、災害ボランティアセンターから来たボランティアとはっきり分かるよう、ガムテープに名前を書いて、見えやすい位置に貼ってください。
○活動は安全第一です。十分な休憩を取り、無理のないようにしましょう。（1時間に1～2回10分程度）
○体調管理は自己責任で行ってください。（水分補給や手洗いがいはこまめに、行いましょう。）
○安全には十分注意してください。建物内でも危険な所は、土足でよい確認してください。また、避難等への対応、二次災害の可能性を考慮してください。
○少しのケガでも大事を取りましょう。大きなけがをした場合は、救急車を呼ぶなどしてください。

(様式8) (裏)

- 危険な作業、企業の悪質行為、政治的、宗教活動への手扱いは断ってください。
○講礼（金品）は受け取らないでください。（お茶やジュースくらいであれば気持ちよく頂きましょう。）
○飲食をはさんでの活動が見込まれる場合は、各自で飲食を調達してください。
○必ず2人以上以上で行動してください。持ち物を離れる場合はリーダーへ報告してください。
○必要なものがゴミかどうかは依頼者にきちんと確認してください。貴重品や貴重書類等も確認し複数名で対応してください。ゴミは分別をきちんと行ってください。
○活動中は、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいをお願いします。特に騒動や声かけが主要な活動になる場合もあります。
○活動先では禁煙厳禁です。
○マスク等からの取柄に対しては、不確実な情報は話さないでください。マスクの取柄の影響は大きく、間違った情報が流れると製品の廃止になります。

(3) 活動が終わったら

- 活動終了時間は4～9月が16:00、10～3月が15:30までとなります。事故を防ぐためにも時間厳守してください。
○依頼者に、作業終了の確認をお願いしてください。
○翌日以降の活動継続を希望されるかどうかを、依頼者に確認し、追加希望があれば、活動報告に日時、内容、期間、氏名を必ず添付してください。
○災害ボランティアセンターに宛て、資機材の返却、報告書の提出、活動の報告を行ってください。



東大和市災害ボランティアセンター
東大和市委向原6-1ハミングホール内
☎042-564-0035

2024/04/12 17:34 令和7年度東大和市ボランティアセンター設置・運営訓練アンケート

令和7年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練アンケート

も14の災害ボランティアセンター設置・運営訓練について返答等をご入力してください。自由記述は回答者さまでの記載をお願いいたします。いただいたご意見につきましては災害対策チームで共有、検討します。またご感想・ご意見につきましては事務局運営の都合上、対応できかねる場合もありますことをご了承ください。

グループフォームから回答される方は下の二次元コードから、

* 必須の質問です

1. 今後の訓練役目をお選びください。*
1つだけマークしてください。
 ボランティア役
 ボランティアリーダー役
 被災者役
 スタッフ役
2. 今日の訓練で災害ボランティアセンターへの理解を深めることができましたか？
1つだけマークしてください。
 大いにできた
 できた
 どちらともいえない
 できなかった



https://www.google.com/forms/d/1L2j5u4H11u9W3uY7vQ4uJ1d0Q42d8888uA1d6d

2024/04/12 17:34 令和7年度東大和市ボランティアセンター設置・運営訓練アンケート

3. 今後の訓練に期待することは何ですか？
1つだけマークしてください。
 今回のような訓練をして欲しい
 防災に関する講演会等を開きたい
 もっと避難所支援講習等を受けたい
 その他 _____
4. ご自身もしくは所属団体として、実務時にご協力いただけることは何ですか？(複数回答可)。
 すべてが可能なものすべて選択してください。
 センタースタッフとして活動できる
 ボランティアとして活動できる
 被災して困っている人へ紹介できる
 センターを知人等へ周知できる
 協力できることは特になし
 無回答
 その他 _____
5. 訓練、災害ボランティアセンターに関して自由にご記入ください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

https://www.google.com/forms/d/1L2j5u4H11u9W3uY7vQ4uJ1d0Q42d8888uA1d6d

令和7年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 振り返りシート (被災支援者班・スタッフ)

グループフォームから回答される方は下の二次元コードから、

* 必須の質問です

1. 所属したグループをご記入ください。(A~D) *
2. ご自身の訓練(被災者への電話、訪問調査)の評価を1つだけチェックしてください。
1つだけマークしてください。
 ていねいによりそって対応できた
 よりそって対応できた
 ふつう
 あまりよりそえなかった
 全くできなかった
3. 2の理由や感想をご記入ください*



https://www.google.com/forms/d/1L2j5u4H11u9W3uY7vQ4uJ1d0Q42d8888uA1d6d

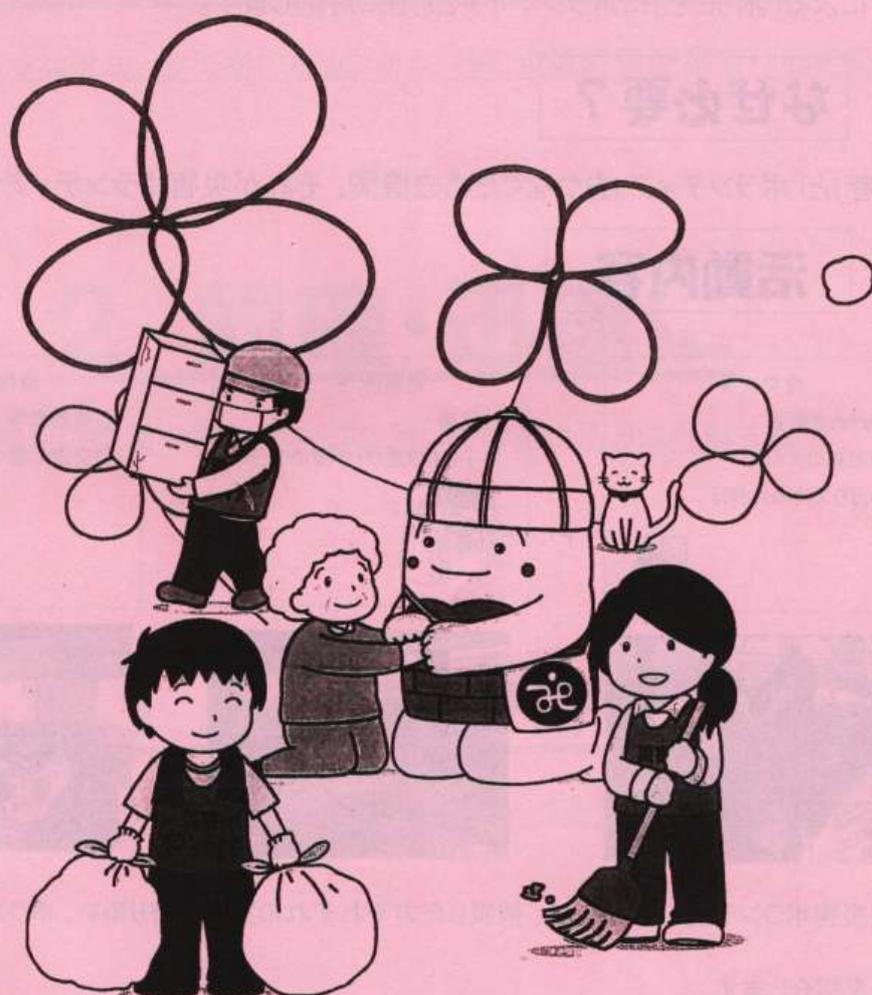
4. Kiritone を使った訓練の評価について1つだけチェックしてください*
 すぐに入力できた
 入力できたがとまどった
 わからないと入力できなかった
5. 4の理由・感想をご記入ください*

6. 訓練全体の評価を1つだけチェックしてください*
 とても良かった
 よかった
 ふつう
 あまりよくなかった
 よくなかった
7. 4の理由や感想をご記入ください*

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

東大和市災害ボランティアセンター 設置・運営マニュアル

R7. 4. 1



東大和市社会福祉協議会

おわりに

ボランティアが被災地の復興支援に大きな役割を果たしていることは、東日本大震災を始め、各地で起きている災害においても広く知れ渡っていることと思います。災害時のボランティア活動は、ガレキの撤去や廃物の運び出しなどに人手を確保することが注目されがちですが、当会ではそれだけではなく、災害が発生したことにより支援が必要となるような、いわゆるハイリスク予備軍と呼ばれる人達を見過ごすことなく支援するための福祉的な視点も大切にする必要があると考えます。災害時、被災者一人ひとりの現状に寄り添うものです。こまやかな支援を行うこと、またその環境を整えることは非常時における地域福祉そのものであり、社協本来の使命でもあります。

市の総合防災計画では、“市及び社会福祉協議会は、災害時に災害ボランティアセンターを設置し、東京都災害ボランティアセンターと連携して、一般ボランティアが被災地のニーズに即した円滑な活動ができるように支援する。”（東大和市地域防災計画「令和2年3月修正版」より抜粋）となっています。これは、社協が平常時より地域福祉活動を行い、上記のような使命が課せられていることによります。

本会は、多くの市民やボランティア、関係機関、行政と協力し、当市の被災者支援と復興に力を合わせるための中核である、災害ボランティアセンター（以下センター）の設置、運営に中心的役割を果たすこととなります。

これらを遂行するため、市と社協では平成25年3月26日「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、また平成26年3月11日東大和青年会議所と社協で、「災害活動の協力に関する協定」を締結しました。このことにより、市、社協、青年会議所は、相互に連携してセンターを運営し、各関係機関と連携して被災者への支援や、災害からの復興を目指すこととなります。

東日本大震災を契機に、それまで各地で作られていたセンターのマニュアルは見直され、より現実的で、効果的なものが作成されています。当市におけるマニュアルも、関係機関、地域住民の参加、協力のもと協議を重ね、極力実践の場を想定しながら作成しました。

センターの運営には、多くの関係機関や市民の協働が不可欠です。災害時の備えとして、物資や資器材等の準備もさることながら、平常時からの「人と人」あるいは「組織と組織」のつながり、日頃からの防災意識の醸成などが大切であること、またそれを継続していくための訓練等が必要であることを再認識しました。

このマニュアルは関係者のみにより利用されるものではなく、広く市民に理解され、皆さまの備えとなること、また新たなつながりづくりの一助になることを望みます。

平成27年5月15日

東大和市災害ボランティアセンター協議会